



from Frankfurt

欧州統合の象徴「ユーロ」

2023年初め、クロアチアが統合通貨「ユーロ」を導入し、EUのユーロ導入国は20カ国となりました。この通貨ユーロは、紙幣・硬貨の正式な流通開始（2002年）から約20年（注1）、その発行額は紙幣だけで約200兆円（注2）、銀行預金等も含めれば約2,000兆円にも上り、ユーロ導入国に住む3億人を超える住民や、その地域を訪れる観光客などさまざまな人々の活動を支えています。

この比較的新しいながらも巨大なユーロですが、慣れ親しんだ通貨からの切り替えには相応の違和感が伴ったようです。EUの世論調査によると、「ユーロを持つことが自国にとって良いこと（Good thing）か」という質問に対する回答は、2007年時点でも Good thing:45%、Bad thing:42%と拮抗（きっこう）していました。また、一部メディアのユーロ20周年回顧記事によると、導入前後の当時は多くの方が、ユーロはそもそも実現しない、すぐに崩壊するなどと予想していたようです。

しかし現在では多くの方が知るように、ユーロは幅広く浸透しました。2022年の世論調査では、「ユ

ーロを持つことがEUにとって良いことか」、また「自国にとって良いことか」という質問に対し、それぞれ77%、69%の人々が Good thing と回答しています（注3）。先ほどの2007年の回答とも見比べると、時間をかけて通貨統合のメリットが理解されていった様子がうかがわれます。

近年、コロナ禍はもとより、ウクライナにおける戦争や高インフレ、エネルギー供給問題など多くの難題に直面する欧州ではありますが、「ユーロは欧州の強さと統合の象徴」とクロアチアのユーロ導入に際してフォン・デア・ライエン欧州委員長が述べたように、ユーロは引き続きその役割と機能を発揮することが期待されています。

（欧州中央銀行、フランクフルト）

（注1）通貨単位としてのユーロは1999年1月に導入されていますが、当初は紙幣・硬貨の存在しない電子的決済通貨でした。

（注2）2022年末レート（1ユーロ約140円）にて換算。

（注3）“Bad thing”はそれぞれ15%、22%（残りは無回答、どちらともいえない等）。

*本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。



EU加盟国の国旗と各国言語で書かれた「欧州中央銀行」の文字



多くの観光客が訪れるクロアチア・ドゥブロヴニクの旧港



ユーロ導入を間近に控える中、現地通貨（クーナ）建て価格とユーロ建て価格が併記されている店舗看板